



連携スタート

かわら美術館 × 名古屋国立大学 × 「タカハマ！まるごと宝箱」

よそのわかものが見ると高浜市にはなにがある？



「タカハマ！まるごと宝箱」では、市民の皆さんとの語りあいとおして、高浜市の歴史や文化を記録する活動を続けてきました。

このたび、「聞き書き」という手法を用いて、瓦をさまざまな角度からとらえ、技術、伝統、文化、まちの歴史、人々の暮らしを語りあひだしていく活動として、名古屋国立大学と、かわら美術館を交えた3者の連携がスタートしました。

その皮切りとして、6月6日、鳥根県海士町などでの「聞き書き」の実績がある名古屋国立大学の佐野直子准教授と学生12人が高浜市を訪れ、高浜駅から「鬼のみち」を散策した後、かわら美術館で瓦のレクチャーを受けました。

8～9月には、高浜市の瓦に関わる人たちへの「聞き書き」を行う予定です。

「よそのわかももの」の眼にたかまはどう映るのでしょうか。美術館での郷土研究とも連携しながら、まちの風物瓦の魅力を改めて掘りおこしていく、この活動に注目してください！



佐野直子さん
名古屋国立大学准教授

他者の生活・人生を聞き、それを書きおこす「聞き書き」によって、語り手と聞き手のみならず、語られた人びと、そしてそれを読む人びととつながっていくことができます。今後が楽しみです。

◀海士町での聞き書きをまとめた「海士伝 隠岐に生きる」(2013新泉社)



金子 智さん
高浜市やきもの里
かわら美術館教育研究課課長

「高浜は日本一の町なのに、みんな瓦に対してクールだなあ」＝「よその」のひとり、私の感想。今回の活動は、若い学生たちの感性をとおして、市民の方に瓦の素晴らしさを気づかせてくれるはず。期待しています！

問合せ先 圃文化スポーツグループ ☎52-1111 (内線300)